

## 発達障害・心身症小児のストレスとコーピング行動に関する研究

小枝達也（鳥取大学教育地域科学部障害児病理学）

秋山伸一（鳥取大学教育学研究科学学校教育専攻）

廣重佳治（鳥取大学教育地域科学部生理心理学）

汐田まどか（鳥取県立皆生小児療育センター小児科）

要旨：軽度発達障害や心身症小児が感じているストレスとそれに対する対処行動（コーピング行動）および保護者から見た我が子のストレスとコーピング行動とを調査し、両者の差異について検討した。保護者については家族機能も調査した。その結果、家族機能が良好な家族では、児のコーピング行動に「積極的対処」と「価値の転換」という行動が有意に多く認められた。また、児自身の感じるストレスと保護者から見た児のストレスは、必ずしも一致しておらず、児自身のコーピング行動と保護者から見た児のコーピング行動は、ほとんど有意な関連がなかった。これらの結果は、保護者からの話のみで指導を行うことの危険性を指摘している。

見出し語：発達障害 心身症 ストレス反応 コーピング行動

### A．研究目的

発達障害や心身症で来院している小児自身のストレス反応とそのコーピング行動、および保護者から見た児のストレス反応とコーピング行動を調べ、両者の差を明らかにする。

### B．対象と方法

平成11年6月から10月に鳥取大学医学部附属病院脳神経小児科外来および鳥取県立皆生小児療育センター小児科に受診した学習障害やADHDなどの発達障害、てんかん等の神経疾患と心身症の小中学生、およびその保護者42組を対象とした。

調査項目は、児本人に対しては 児童用ストレス反応尺度、 児童用コーピング尺度の2つを、保護者に対しては 家族機能尺度、保護者用ストレス反応尺度（児童用ストレス反応尺度の項目につき、自分の子どもの様子から推測させるもの）、保護者用コーピング尺度（児童用コーピング尺度の項目につき、自分の子どものコーピング行動を推測させるもの）を行った。調査は質問紙により行い、読字が困難な小児に対しては、口頭で質問を行った。各尺度は4件法にて回答してもらい、1～4点で得点化した。

検討内容は 家族機能障害の有無と小児のストレス反応およびコーピング行動、 ストレス反応項目における小児と保護者の回答関連、 コーピング行動項目における小児と保護者の回答関連である。統計処理にはSPSSを用いた。

### C．研究結果

(1)家族機能障害と児のストレス反応およびコーピ

### ング行動

得点が6点以下で家族機能障害があると考えられたのは16家族（38.1%）、7点以上で家族機能障害がないと考えられたのは26家族（61.9%）であった。両者のストレス反応尺度には、有意差はまったく認められなかった（t検定、表1）。コーピング行動尺度では、「積極的対処」と「価値の転換」の2項目で有意差を認め（各々 $p<0.05$ 、 $p<0.01$ 、表2）、家族機能障害のある家庭の小児は、「積極的対処」と「価値の転換」という行動が少ないという結果であった。

(2)ストレス反応における児と保護者の回答関連

「不機嫌や怒り」というストレス反応では、小児と保護者の回答関連は良好であったが、「抑うつ不安」という反応での関連は不良であった。また、「無気力」というストレス反応では、回答関連が正の相関を示す項目と負の相関を示す項目とが混在していた（表3）。

(3)コーピング行動における児と保護者の回答関連

「価値の転換」では、すべての項目で有意であったが、「積極的対処」、「思考回避」、「サポート希求」では、有意な相関を示す項目はまったく認められなかった（表4）。

### D．考察

家族機能障害のある家庭の児では家族機能障害のない家庭の児に比べて、積極的対処や価値の転換という対処行動を取っていないことが明らかになった。発達障害や心身症の小児の行動には、背景にある家族機能が重要な役割を果たしていることがうかがえる。児が何らかの不適応行動を示したとき、

児本人に対する働きかけと共に、家族が相互に支え合うという家族機能にも働きかける必要があると思われる。

ストレス反応には、小児と保護者の回答連関に有意な相関を認める項目が多く、ストレス反応は保護者も把握しやすいと考えられた。しかし、その中でも把握しやすい項目と保護者には見えにくい項目とがあることに留意する必要がある。また、コーピング行動には有意な相関は少なく、ストレス反応よりも保護者が把握しにくいことが明らかとなった。

表1 家族機能障害の有無と児のストレス反応

| 因子    | 家族機能障害      |             | p    |
|-------|-------------|-------------|------|
|       | あり          | なし          |      |
| 身体的反応 | 10.1 (3.50) | 11.3 (3.83) | n.s. |
| 抑うつ不  | 8.2 (3.92)  | 10.3 (4.29) | n.s. |
| 不機嫌怒り | 7.4 (3.33)  | 8.9 (3.71)  | n.s. |
| 無気    | 11.3 (3.84) | 10.4 (3.45) | n.s. |

平均値 (標準偏差)

表3 児と保護者の回答連関(ストレス反応)

|       | 項目            | 係数     | p    |
|-------|---------------|--------|------|
| 身体的反応 | つかれやすい        | 0.169  | n.s. |
|       | 体がだるい         | 0.177  | n.s. |
|       | 頭がくらくらする      | 0.361  | <.05 |
|       | 頭痛がする         | 0.341  | <.05 |
|       | 気持ちが悪い        | -0.007 | n.s. |
| 抑うつ不安 | なんとなく、心配である   | 0.000  | n.s. |
|       | なんだかこわい感じがする  | 0.342  | <.05 |
|       | 気持ちが沈んでいる     | 0.038  | n.s. |
| 怒り機嫌  | かなしい          | 0.094  | n.s. |
|       | さびしい          | 0.032  | n.s. |
|       | 不機嫌で、怒りっぽい    | 0.445  | <.01 |
|       | 誰かに、怒りをぶつけたい  | 0.555  | <.01 |
| 無気力   | 気持ちか、むしゃくしゃする | 0.440  | <.01 |
|       | 何もかもいやだと思う    | 0.344  | <.05 |
|       | 勉強が手につかない     | 0.352  | <.05 |
|       | あまりがんばれない     | 0.065  | n.s. |
|       | 何かに集中できない     | 0.320  | <.05 |
|       | 何もやる気がしない     | -0.320 | <.05 |
|       | 体から、力がわかない    | 0.287  | n.s. |

発達障害や心身症の小児の外来指導は、その疾患の性格からしばしば患児が同席しないまま、保護者との間でのみ行われてしまうことが多い。この場合、保護者というフィルターを通した患児を診ていることに留意すべきである。

## E. 研究発表

### 1. 学会発表

第4回鳥取県小児心身医学研究会 (平成12年2月6日)

表2 家族機能障害の有無と児のストレス反応

| 因子     | 家族機能障害     |            | p    |
|--------|------------|------------|------|
|        | あり         | なし         |      |
| 積極的対処  | 7.1 (1.81) | 8.6 (2.18) | <.05 |
| 思考回避   | 7.1 (2.83) | 6.9 (1.91) | n.s. |
| サポート希求 | 6.4 (2.66) | 6.9 (3.07) | n.s. |
| 消極的対処  | 5.9 (1.41) | 6.6 (2.02) | n.s. |
| 価値転換   | 6.9 (2.09) | 9.0 (2.45) | <.01 |

平均値 (標準偏差)

表4 児と保護者の回答連関(コーピング行動)

|        | 項目                      | 係数     | p    |
|--------|-------------------------|--------|------|
| 積極的対処  | 何とかしようと、努力する            | 0.13   | n.s. |
|        | どうしてそうなったかを考える          | 0.04   | n.s. |
|        | 自分で、自分を励ます              | 0.07   | n.s. |
| 思考回避   | なるようになれと考える             | -0.026 | n.s. |
|        | 大したことではないと考える           | 0.130  | n.s. |
|        | あまり考えないようにする            | -0.059 | n.s. |
| サポート希求 | 誰かにどうしたらよいかを聞く          | -0.005 | n.s. |
|        | 誰かに助けてくれるように頼む          | 0.139  | n.s. |
| 消極的対処  | 自分のことを人に聞いてもらう          | 0.051  | n.s. |
|        | どうなるか、様子を見る             | 0.055  | n.s. |
|        | どうしようもないのであきらめる         | 0.367  | <.05 |
| 価値転換   | そのことから、逃げる              | 0.075  | n.s. |
|        | 大切なことだと、考える             | 0.327  | <.05 |
|        | いやなことの中から、よいところを見つけようとす | 0.397  | <.05 |
|        | よいことを学んだ、と考える           | 0.306  | <.05 |